

鑑賞 + 表現【つくりたいものをつくる】



装身具を身につけたトルクメン人

装身具は合わせると10キロを超えることもあったそうです。

題材の目標

トルクメン人のいろいろな飾りを見て、飾りの形や色、表し方のおもしろさに関心をもち、身を飾ることの楽しさを味わう。

材料の形や色などから発想し、飾りをつくり身に付けて楽しむ。

準備物

【教師】「トルクメンの装身具」の写真、アルミホイル、色セロファン紙、色紙、接着剤、ホットボンド、針金など

【児童】はさみ、のり、パス、アルミホイル、ビーズ、毛糸、ボタンなど

学習の展開例

学 習 活 動	導 上 の 留 意 事 項	評 価 規 準
<p>飾りを身につけているトルクメン人の写真を見て話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だれだろう？（どこの国の人？） ・身につけているものは何だろう？ ・身につけるわけは？ ・何でできているのだろう？ ・好きなかざりはどれ？なぜ？ <p>身の回りにある材料を使って、自分が身に付ける飾りをつくる。</p> <p>飾りを身に付け鑑賞し合い、楽しく遊ぶ。</p> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想を書く。 	<p>初めに装身具を身につけているトルクメン人の写真を見せ興味をもたせ、次に装身具の写真を見せながら装飾品の形や色、表し方に関心をもたせていく。</p> <p>作品から受けた印象を大切にし、好きな所や面白い所など児童の感じ取ったことを自由に発表させる。</p> <p>自分が使ってみたい材料が選べるように多様な材料を準備する。</p> <p>鑑賞したことを生かしている作品や工夫がされている作品を紹介し、自分たちのよさを共有する。</p> <p>自分の工夫した所や友だちのよさなどを伝え合わせ、お互いのよい表現に気づかせる。</p> <p>時間がない時は、日記や作文に書かせるなどして学習を振り返らせる。</p>	<p>形や色、表し方の感じを楽しみ、つくったり、身に付けてみたいという思いをもつ。</p> <p>表したいことに合わせて、材料や用具を選んだり、試したりして思いのままに表す。</p>

題材の意図と指導のポイント

< 児童の発達段階との関連 >

この時期の児童は、自分がつくったものを身につけて遊ぶことが大好きです。トルクメン人の美しい装身具から自由に発想を広げ、思いのままにつくりだす喜びを味わわせるとともに、身につけて楽しむ(遊び性)活動も取り入れるとよいでしょう。

< 鑑賞の視点 >

鑑賞の視点としては、金工職人が手仕事で一つ一つていねいな仕事をしている所に注目させましょう。

自分が作った作品を身につけて遊ぶことを通して、作品を体全体で味わい、身につける楽しさや作品を身近に感じ大切にする心情を育てましょう。

< 指導の工夫及び配慮 >

児童の興味や関心を引きつけるため、作品の提示方法を工夫しましょう。例えば、「背飾り」は、どこにつけるのか分かりにくいのでクイズにして考えさせたり、教師が飾りをつくって自分が身につけて授業をしたりしても楽しいでしょう。

< 教具(教材)づくり >

写真を鑑賞する時、スライドやプロジェクターで画面に大きく映して見た方が細かい所まで見ることができ効果的です。

児童は、色々な材料から豊かな発想を広げます。鑑賞作品の主材料が銀なので、アルミホイルを効果的に活用するとよいでしょう。また、身近な自然物を活用することもできます。

トルクメンの銀製装身具ぎんせいそうしんぐ(中央アジアの金工) 18~20世紀



中央アジアのトルクメニスタン、イラン、アフガニスタンなどに住んでいるトルクメン人が、日常生活の中で身につけていた装身具です。

この装身具の主な材料は銀で、それに宝石(紅玉こうぎよく髓)やガラスをはめ込み、彫金や金めっきをほどこしています。「紅玉髓」の赤い色は怪我から身を守るといわれ、トルクメン人にとっては不可欠な色だそうです。装飾品の役割とともに護符(神仏のお守り札)の役目もしていました。



男子用背飾り



腕飾り



帽子飾り